

幸いな人生

詩篇1篇1～6節

世の多くの人はいいます。①「教会は善男善女が集まっているところですね」又教会のある長老はいいます、②「教会は罪人のあつまりだ」①は私たちからすれば、間違っていると思います。②はちょっと淋しいですね。

また、多くの人、「あの人は立派だから神様から祝福されている人だ」と思っています。しかし、立派な人が祝福を受けるものではありません。

————— すべての人は罪を犯

して・・・ —————

実は、神様の前には立派な人も、立派でない人もありません。ある一つの点ではみんな同じなのです。例えば、屋上から下を見れば、背の高い人も、低い人もみんな同じに見えます。人間は皆同じ、似たり寄ったりです。気の弱い人、強い人、意思の強い人、弱い人、勉強の好きな人、嫌いな人、体の強い人、弱い人、・・・でも皆似たり寄ったりなのです。聖書に

ローマ3：23節「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、・・・」と書かれています。ではこんな罪人の私たちが祝福を受けるにはどうしたら良いのでしょうか？

————— 幸いの人生を歩む

には —————

私たちせっかく与えられた一度の人生です。最高の人生を送りたいですね。

では、幸いの人生を歩むにはどうしたらよいのでしょうか？

今朝のみ言葉では、幸いの人と、幸いでない人とが、はっきりと分かれて書かれています。

さて、幸いな人生を考える時に教えられる3つの原則です。

・その1、あなたがこの人生、誰と一緒に歩んでいるか、ということです。

1節、「幸いなことよ。悪しき者のはかりごとによまず 罪人の道に立たず
あざける者の座に着かない人。」

「朱に交われれば赤くなる」ということわざがありますが、確かにそうですね。友達によって私たちは強い影響を受けます。「付き合っている友達を見ると、その人が見えてくる」と、ある人が言いました。

(第一列王記11：43～12：15節、読む) ソロモン王が死んでその子、レハベアムが王となりました。今までの重税に苦しんでいた民はこの新しい王に願いました。「重税と労役を軽くしてください」実はソロモンは大建設事業を進めるために、国民に重税と重労働を課していました。民はソロモンが死んだ時、新しい王に負担の削減を求めました。しかし、レハベアム王は、父ソロモン王の時代の長老の、「民の声に答えて下さい」の助言を退けました。そして、仲のいい若者の「もっと厳しく取り立てよ」の意見を取り入れました。レハベアムは長老たちの

知恵を捨てて、何と傲慢で自信過剰、無思慮で無責任な若者たちの意見に従ったのです。その結果国は分裂、国の大半を失いました。残念でした。レハベアムは「悪しき者のはかりごと」の道に歩いてしまったのです。私たちもよくよく注意してレハベアムの道に進まない様にしましょう。

しかし、あなたが神様と共に歩む人と出会い、その人と共に人生を歩む時

あなたが心から神様を愛する人と出会い、その人と共に歩む時

あなたがその心が愛に満ち、その生活が清い人と出会い、その人と歩む時、

あなたがそのことば、心が美しい人と出会い、その人と人生を歩む時、

あなたは変わります。そして確実に幸せな人生を歩むことが出来ます。

そして、更に

あなたが、キリストと出会い、彼と共に歩み始める時、あなたは確実に変わります。

さて、幸いな人生を考える時に教えられる3つの原則です。

・その2、あなたはこの人生、いつも何を喜びとしているか、ということです。

2節「幸いな人よ・・・主の教えを喜びとし 昼も夜も その教えを口ずさむ人」

イエス様はいいました。
ルカ12：34節「あなたの宝のあるところ、そこにあるあなたがたの心もあるのです。」

は ———

教会の近くにオートレース場があります。昼間から多くの人々が大型バスに乗ってやってきます。また、朝から晩までパチンコ三昧という人もいますでしょう。名古屋にいた頃、万年求道者の青年がいました。ある日、彼のアパートを訪問して、中に入れてもらいました。まずタバコの臭いが鼻を突きました。そして、次に目に飛び込んできたもの、それは部屋中に散乱しているエロ本、エロ雑誌、そんな写真が壁の至るところに、天井まで貼ってありました。彼はその様な欲望にしばられジメジメした人生を送っていたのでした。

人は心の中に何を住まわせるかによって人生が変わってしまいます。豚のような貪欲を住まわせれば、豚のような一生を送ります。オオカミのような劣情を住まわせれば、オオカミの様な劣情に満ちた一生を送るのです。

でも、あなたがイエス・キリスト様を心にお迎えして、あなたの心に住んでいただくならあなたの人生は変わります。あなたが神様の教えを喜びとし、朝に夕にその教えを喜びとする時、確実にあなたの人生は変わります。

とても明るく爽やかな一人の婦人がおりました。その家に、ある日訪問しました。家に入ってびっくりです。何と玄関、廊下、そしてどの部屋にもみことば、聖画、星野富弘さんのカレンダー、そして聖書が、信仰書がありました。台所には求道者の名前（祈りのリスト）が、そしてトイレの中にも、日めくりカレンダーがありました。その方はいつも、「主の教えを喜びとし、昼も夜も その教えを口ずさむ人」だったのです。私たちも、いつも喜び、喜

び続けて行きたいですね。喜びには幸せになる力があるのです。

さて、幸いな人生を考える時に教えられる3つの原則です。

・その3、あなたはこの人生、何を土台としているか、ということです。

3節「幸いな人・・・その人は 流れのほとりに植えられた木。時が来ると実を結び その葉は枯れず そのなすことはすべて栄える。」

もう大分前の話ですが、一人の引退近くの牧師が米国に宣教師に誘われて行きました。ニューヨークにいて驚きました。日本では見たこともない高層建築がそびえているのです。目を見張っていた牧師に宣教師は言いました「この場所の下は大きな堅い岩盤なのです。土台がしっかりしているのでいくらでも高いビルが建てられるのです」

イエス様も（マタイ7：24～27節、読む）次の様に教えられました。賢い人は堅い岩の上に家を建てます。愚かな人は柔らかい砂の上に家を建てます。「家」とは私のことです。私がどんなにしっかりしても土台が貧弱ではすぐ倒れてしまいます。では多くの人の土台とは何でしょう。財産、家、地位、身分、健康、宗教、そして人間？・・・。しがみついても、裏切られたり、亡くなられたり、人の心は変わり裏切られる事もあるのです。

聖書は永遠に変わらないもの、続くもの、命を与えるものをあなたの土台にきなさいと語っています

す。あなた自身の成長も大切ですが、あなたを支える土台はもっと大切です。

聖書はキリストを土台にし、キリストの言葉を土台にするならば、その人の生涯は「流れのほとりに植えられた木（水路に植わった木のような）」（3節）と語っています。「時が来ると実を結び その葉は枯れず。そのなすことはすべて栄える」のです。

最後に「その人は」ここに自分の名前を入れて詩篇第1篇2、3節を読んでみましょう。

今日は「幸いな人生」というテーマで3つのことを学びました。

- ①あなたはいつも誰と歩んでいますか
- ②あなたはいつも何を喜びとしていますか
- ③あなたはいつも何を土台として生きていますか。

最後に、ある方が「尊敬される人」とは、と次の様に言いました。それは「一つの原則に立ち、自分の目指す理想の世界を明確に示すことができる人」でした。

さて、この年の後半、キリストに根を深く張り、上に豊かな実を結ぶ、そんな人生に向かって、しっかりと共に進んでまいりましょう。

